

### 経営理念をバイブルに

(株)メコム代表取締役社長  
安部 弘行氏



「人生は一瞬也 企業は永遠也」。父である先代社長安部一男が自ら経営の指針とした社訓だ。当社の経営理念は、この社訓をバックボーンに、創業精神、ミッション、ビジョン、行動指針から成る。全社共有のバイブルであり羅針盤です。

経営理念重視の経営を強く意識したのは、京セラ創業者稲盛和夫氏を囲む若手経営者の集まり「盛和塾」のメンバー西泰宏氏の存在でした。1923(大正12)年に創業。徳島市に本社を置き、ナットを中心としたものづくり企業西精工(株)の3代目社長で、「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞(中小企業長官賞)や日本経営品質賞など受賞、社員満足度日本一の企業と評価されている。「毎日会社に行くのが楽しくてしょうがない」と社員が口にする組織をどうして実現したのか。当社創業70周年の記念事業として、西氏を招いて講演会を開催した。誌上でその一端を紹介します。

西精工(株)は国内すべての大手自動車、電機メーカーと取引している。しかし、西氏が東京の大手広告代理店を退社し社長となった1998年当時は、

ごみはおろか自社製品が床に落ち、ろくに挨拶もしない会社だった。改革しようとしても理解する社員はごくわずか。悩んだ末にたどり着いたのが、「なんのために会社はあるのか」という稲盛氏の教え。経営に対する理念の重要性であった。

1年かけて、「社員が一番大事な家族と一緒に、大家族主義で社員の幸せを追求したい」という創業の精神、ミッション、ビジョンに、「明るい挨拶・時間を守る」といったような、西氏の言葉を借りれば、小さな子供に諭すような行動規範を加え、経営理念を定めた。

これだけにはとどまらない。特筆されるのは毎日の朝礼50分。経営理念を自分のものとし、その上で、社員1人ひとりが自分の目的、夢、作業のカイゼンなどについて発表する。その間、自動化していない機械は停止する。「対話・合意形成・納得・動く」を実践している。講演で西氏は、この間の経緯、具体的事例を挙げ、演題である「人が輝く組織づくり～関わる人の幸せを追求する人づくりが、最高のものづくりにつながる～」について熱く語った。聴講した多くの経営者の方々に共感していただいたのでは、と思います。

さて、当社は1946(昭和21)年2月、熊谷宗三郎が進駐軍払い下げの青写真複写機で焼付け業を開業したのが始まりです。復興需要が急増した翌年(有)東北感光社を設立。2代目社長となる父は最先端の事務機器販売に力を注ぎ、就任当時年間売上がわずか5億円程度であった会社を、年間約50億円まで伸ばしました。

以来、「多様化するITの新しい価値を創造し、お客様のビジネスを成長させ人々の豊かな生活と地域の発展に貢献する」(ミッション)と、「創造力とCS(顧客満足度)で東北を代表するITソリューション企業を目指し市場を全国へ広げる」(ビジョン)の下、挑戦し続けて70周年を迎えることができました。

うれしいことがありました。取引先のキャノンマーケティングジャパン(株)が独自に行う顧客満足度調査で昨年、全国第一位を獲得したことです。「自ら問題を発見し解決する」などからなる行動指針を社員が実践してくれました。可能性は無限大です。「企業は永遠也」を胸に、「仕事大好きな集団、お客様に貢献することが喜びと感じられる『社員・組織』を作っていきたい」(創業精神)。100周年に向かってスタートです。

(山形商工会議所議員)